

エリオットくんもんだ
いのおまけ

Takedown

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

あにまんて投稿した二つのa sを投稿します

目次

いやらし魔族先生編

1

いやらし魔族先生編

学科：保健体育

解答者：ルディア・グレイラット

作問者：ロキシシー・グレイラット

以下の文章は昨晚の出来事を物語調に記録したものである。自分の記憶を振り返りながら文章を読み、課題を提出せよ。

ロキシシーが部屋に入ると、むせ返るような女の匂いがした。

「先生え。もうやめて……私が悪かったです……?？」

蠟燭の朧げな灯が頼りの部屋の中、女は天井から垂らされた鎖に両腕を繋がれていた。

娼婦が身につけるような下品な下着でなければなしに肌を隠し、目を隠され、だらしなく唾液を溢しながら、ロキシシーの慈悲を哀願する。

彼女の名はルディア。

幼い頃からロキシシーが指導している生徒だ。

「ふいふいっ。」

まだダメです。

どうですか？

媚薬を使った香と、わたしが開発した性感魔術は。

生意気な貴方専用のとっておきです。

刺激的で癖になるでしょう？」

「や、あんっ?!」

そうこう言ってる間にも、ルディアの身体は果てたようだ。

肌は汗ばみ、背の割に大きい胸が刺激で揺れる。

「全く。」

『ロキシシーはシルフィーやエリスよりも弱々で可愛い??』なんて生意気なことを言うからです。

反省しましたか？」

「はいい??」

反省しましたあ??」

「なら私が教えたことを3つ答えなさい」

「一つ、先生には常に敬意を持つて接すること??」

二つ、教え子は先生に分からせられる運命にあること??」

三つ、わたくしルディア・グレイラットは誰にも勝てないクソザコであることおつ?」「よく出来ました。」

ご褒美に折檻は朝までで許してあげますね。

それまで頭がエリオットにならないよう励みなさい」

「そんなにやあああああああ!?!」

そんなの絶対むりいいいい!!?

良い子にするから助けてええええええ??」

「精々悔い改めなさい」

課題1

この文章を10回音読せよ。

課題2

昨晚自分が何回果てたか正確に答えよ。

課題3

先生に対する三カ条の誓文を正確に記述せよ。

課題4

昨晚特に刺激を感じた部分を降順に10個答えよ。

課題5

自分の行いのどこが愚かで無様だったか、羊皮紙三枚にまとめて詳細に記述せよ。
発展課題

この課題は諸君の自主性に委ねる。

性感魔術を改良して自分の身体を用いて効果を実証し、羊皮紙にまとめよ。

エリオットくんへん

どうとくのもんだい（エリオットくんよう）

つくったひと：ルディア・グレイラット

ルディアちゃん、エリオットくん、シルフィーくん、ロキシーくんがやしきでこうちやをのんでいます。

そばにはメイドのアイシャちゃんがそばにいます。

きょうはひさしぶりにふうふぜんいであつまれたひでした。

エリオット「きょうはみんなにプレゼントがあるんだ!!」

エリオットくんはいました。

ルディア「エリオットが？」

シルフィー「ふふっ。なにかな？」

ロキシー「めずらしいこともあるものですね」

エリオットくんがひとりのおんなのこをつれてきました。

リニア「やあ」

エリオット「じゆうぞくのおんなをさらってきたぞ!!」

こんやはこいつをつかってみんなであそぼうぜ!!!」

ロキシー（きぜつ）

シルフィー「しんじられない……。ばかのせかいチャンピオンだ……」

ルディア「アイシャ」

アイシャ「はい」

ルディア「いますぐこのおとこをやしきからおいだしなさい」

アイシャ「かしまりました」

もんだい1

このときのシルフィーくんのきもちをこたえなさい。

シルフィーくんはリニアちゃんともだちです。

もんだい2

このときのルディアちゃんのきもちをこたえなさい。

ヒント：わたしはとてもかなしいです。

もんだい3

エリオットくんはどうしてこんなことをしてしまったのでしょうか？

つきからはこんなことをしないためにどうきをつけたらいいですか？

ルディアちゃんがなつとくするこたえをかくまでおうちにはぜったいいれません。